

総合的な学習の時間 学習指導案

単元名「日本の人達 8っぴ〜総合大作戦 ~できることなら世界まで~」

【探究課題：だれもが暮らしやすい社会を目指して】

人権教育 重要課題 (4) 障害のある人たち

令和5年10月27日(金) 第5校時 4年O組教室

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	学校や地域を実際に見に行ったり、障害のある人たちの疑似体験をしたりすることを通して、日常的に困難を抱えている人たちの思いや願いを理解し、だれもが暮らしやすい生活について考えるとともに、自分たちにできることを見つけて行動することができるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	(削除)	(削除)	(削除)

2 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 日常的に困難を抱えている人たちの思いや困難を解決するために工夫がされていることを理解している。 ② 困難を抱える人だけでなく、だれもが暮らしやすい社会にする大切さを理解している。 ③ 体験や調べ学習を通して分かったことを図や文章など自分に合った方法でまとめる方法を身に付けている。	① 障害のある人たちの体験から困難さを見つけ、課題を設定し、解決策を考えている。 ② 困難さを解決するために必要な情報を調査する内容に応じた手段を選択して収集している。 ③ 収集した情報を比較し、自らの課題の解決に結びつく情報を整理・分析している。 ④ 困難さの解決に向けた自分の考えを、相手や目的を意識してまとめ、表現している。	① それぞれの人のよさや自分のよさに気づき、違いにも目を向けながら活動に進んで取り組もうとしている。 ② 友達の考えのよさ、自分との違いに気付くと共に、違う考えのよさも取り入れながら、協働して学び合おうとしている。 ③ 自分にもできることがあることに気づき、だれもが暮らしやすい社会を目指し、困難さの解決に向けて取り組もうとしている。

3 人権教育とのかかわり

児童は、家族や友達、教員との関わりを通して、一人一人によさや違いがあることを感じ、違いがあってよいということを理解している。しかし、違いがあってよいと頭では分かっているものの、勉強や運動、生活の様子から、「あの人は〇〇はできるけれど△△はできない」などと判断し、できないことに対してはマイナスなイメージをもったり、相手の意向を考慮せず、手伝ってあげることが第一と誤ってしまったりしている。

現代は、障害といっても簡単には分けられない。身体的な障害だけでなく、目には見えにくい障害を抱えている人もいる。そのような多様な人がいる社会でこれから過ごしていく子どもたちにとって、様々な立場の人の気持ちを想像し、その人が何を望んでいるのか、その人のために自分にできることは何なのかを考えることは必要不可欠である。

そこで、本単元では、公共施設の現場調査や障害者疑似体験などの体験活動を通して、障害のある人だけでなく、身の回りで生活する人たちも、それぞれがその人にとっての困難さを抱えていることに気付けるようにする。また、体験活動を通して気付いた困難さを解決し、みんなが暮らしやすい社会を目指そうとする中で「できないことは手伝ってあげる」という単純なものではなく、その人が今何を思い、何が必要なのか、今の

自分にそれができるのか、どんなことなら実現可能なのかを考えていけるようにする。

【育てたい能力・態度】

○感性：体験活動を通して、障害のある人をはじめ、生活の中で困難を抱えている人がいることに気付く。

○判断力：体験活動を通して気付いた困難さを解決するために、他者の考えや情報を踏まえ、自分に何ができるかを考えることができる。

4 探究課題の価値

本単元では、体験活動を多く取り入れる。実際に目や耳が不自由な人の立場になった体験をすることで、その人を理解することにつながる。実際に自分で感じた困難さを実生活で毎日感じながら生活している人がいることに目を向け、困難さの解決を目指す。個人での活動だけでなく、友達と協力して体験活動をすることで、仲間のよさやありがたさも感じることができる。また、困難さの解決のために考えていく、調べていく活動では、グループでの活動も取り入れ、仲間の考えを受け入れること、新しい発見をすることも経験し、自分本位ではなく、相手の立場にたった考え方も学んでいくことができる探究課題である。

II 本時の学習 (10/18)

1 ねらい

本時までには知ったこと、調べたこと、体験したことを友達と共有することを通して、自らの課題を考え、その課題解決に向けた学習方法を考えることができるようにする。

2 人権教育の視点

○感性：障害のある人をはじめ、生活の中で困難を抱えている人がいることに気付く。

○判断力：気付いた困難さを解決するために、他者の考えや情報を踏まえ、自分に何ができるかを考えることができる。

3 展開

【★ICT 活用に関する事項】

<p>主な学習活動 予想される児童の反応【S】</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">主な発問</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (体験活動、校外学習、UD 学習) (5分)</p> <p>S: 見えない、聞こえない、歩けないって大変だった。 S: アイマスクをして動いたらこわかった。 S: 楽しかった。</p> <p>2 体験を通して考えたことや疑問に思ったことを相手の立場になって表現する。 (10分)【★記録】</p> <p>S: しょうがいがあって大変、つらいと思っている。 S: やりたいことができない。 S: 実は大変とは思っていないかもしれない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 相手の立場を大切にしながら、 これからの自分の活動を考えよう。</p> </div>	<p>○前時までの学習の振り返りができるように、写真等を提示し思い出せるようにする。【★提示】</p> <p>○自分達が体験を通して感じたことを素直に表現できるように、色々な感じ方があってよいことを伝えたり、児童の発言に共感したりする。(板書)</p> <p>○自分達だけでなく、しょうがいのある人の思いにも目を向けることができるように、単元名を振り返らせ、なぜこの学習をしているのかを考えさせる。</p> <p>○しょうがいのある人の立場で考えさせることで、自分だけでなく相手の立場になって考える意識を高められるようにする。</p> <p>○単元名(単元の課題)を確認し、何を意識した活動をすればよいのかを児童から引き出し、相手を意識した本時のめあてを設定できるようにする。</p>
	<p>◇体験活動を通して、障害のある人をはじめ、生活の中で困難を抱えている人がいることに気付く。【感性】</p>

3 個別にこれからできそうな活動を考え、
ジャムボードに入力する。(10分)【★共同編集】

目標達成のために、次の総合の時間からどんな活動をしたらよいか?

- S: 体験をしたい。聞きに行きたい。
- S: インターネットや本で調べたら分かるかな。
- S: しょうがいのある人に実際に聞きたい。理由は、本人に聞けば一番よく分かると思うから。
- S: 話を聞くことは難しいかもしれないから、インターネットでも調べられるようにしたい。

4 班で考えを共有、話し合いをし、これからの活動を考え、ジャムボードに入力する。(15分)【★共同編集】

- S: 体験をしようと思う。困難だと思ったことをもう一度その人の立場になって体験し直してみると、さらに発見があるかもしれないから。
- S: 実際に話を聞いてみたい。しょうがいのある人は絶対大変だと思っていただけれど、そうではないかもしれないから、実際に話を聞いて確かめてみたいと思ったから。
- S: 実際にその人に話を聞けるのかな?先生に相談してみる?
- S: わかどりのクラスの先生にインタビューってできるかな?

5 本時のめあての到達度を確認し、次時の見通しをもって本時の振り返りをする。(5分)【★記録】

- S: 活動を決められることができた。
- S: 友達の考えも聞いて、できそうな活動が色々あることが分かった。
- S: 次の活動では、体験をし直して、課題解決していきたい。
- S: 考えた活動が本当にできるかまだ不安。

まとめ: みんなが8つび~になるためには、相手の立場で考えることも大切にしていこうとよい。

振り返り S: みんなの考えも参考にして次の活動を決めることができました。いろいろな立場の人の考えや思いを大切にしながら、どうしたらみんなが暮らしやすい社会になるのか考えていきたいです。

○本時のめあてを再確認し、どんな活動ができるとよいか、全体で少し考え、個別活動のヒントになるようにする。

○一人一人がどのような活動をしたらよいかを考えられるように、まずは簡単な言葉で活動をたくさん出せばよいことを伝える。

○児童が入力した活動がより具体的になるように、途中で声をかけ、「なぜ」、「だれに」、「どうやって」、「理由は」など問いかける。

○何人かの児童との掛け合いを全体に示すことで、このあとの話し合いの視点を明確にし、自分や友達の考えが目標達成につながるかを確認できるようにする。

○自分が考えた活動と友達が考えた活動のよさなどを比較し、これからどんな活動をしたいか考えられるようにする。

○よりよい活動を選択できるように、だれもが暮らしやすい社会の実現に向かうという単元名を思い出させる。

○友達の活動を知ったり、よりよい活動にしていけることができたりするように、なぜその活動を選んだのかを自分の言葉で伝え合う時間を設定する。

◆評価項目(思)

児童同士の共有場面での発言やジャムボードへの記入内容から「障害のある人たちの体験から困難さを見つけ、課題を設定し、解決策を考えているか」を評価する。

○次時の活動の見通しをもつことができるように「本時の活動での気づき」、「次時の活動への意気込み」、「相手の立場で考えることの大切さ」等を意識させながら入力を促す。

○相手の立場でも考えること、目標達成に向けた活動をしていくことを意識づけられるように、何人かに発表を促し、これからの活動の共通理解を図る。

◇体験活動を通して気付いた困難さを解決するために、他者の考えや情報を踏まえ、自分に何ができるかを考えることができる。【判断力】

<別紙>

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 18 時間：本時 10 時）

	時	主な活動内容	知	思	主
つかむ	1~3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 3 時間 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳「ほんとうに上手な乗り方とは」の学習から、社会の中には様々な人がいて、それぞれ困難さを抱えていることに気付く。(あ) ・子どもも大人も障害のある人も困難さを抱えていることから、だれもが暮らしやすい社会にしていくことが必要であることに気付く。(あ) (い) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 単元の課題 だれもが暮らしやすい社会にするために解決策を考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の課題を基に、単元名（クラスの作戦名）を決定する。(あ) (い) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元名 日本の人達 8 っぴ〜総合大作戦 ~できることなら世界まで~ </div>			① ② ②
追及する	4~10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 単元の課題に基づき、体験を通して課題を設定し、追究する。 7 時間 </div> <p>【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインについて知り、予想し、調べる。(あ) (い) (どこにあって、だれのためで、どのようなユニバーサルデザインなのか等) ・自分たちが生活する身の回りから困難さや困難さに対する工夫を探す。(い) ・探し出した困難さ、工夫を共有し、自分が感じたことを伝え合う。(い) <p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの困難さや工夫を振り返り、実際に体験をしてみる。(アイマスク・点字) (あ) ・実際に体験をしてみる。(手話) (あ) ・実際に体験をしてみる。(車椅子) (あ) <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験したこと、調べたことを共有・整理し、次の活動を考える。<本時> (あ) (い) (う) 	① ①	③ ① ① ①	①
追及する②	11~16	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 新たな課題を見だし、継続して追究する。 6 時間 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次の活動について共有し、お互いにアドバイスし合う。(い) ・考えた活動を実施する。(あ) ・活動を振り返り、共有する。(あ) (い) ・体験や調べたことを生かし、当事者の方の思いを考え、これからの社会に必要なこと、自分にできること（行動、気持ち）を表現する方法を考える。(い) ・自分にできることをまとめる。(あ) ・自分にできることを共有し合う。(あ) (い) 	③	② ③ ④ ④	③ ② ②
まとめる	17~18	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 単元全体の振り返りをする。 2 時間 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を始めた当初の自分を思い出し、学習後の変化を考え、まとめる。(あ) ・次年度の 4 年生に向けて、成果と課題、アドバイスをまとめる。(あ) 	③	④	②

*活用する学習支援ソフト等：(あ) Google スライド (い) Google ジャムボード (う) Google クラブルーム